配布資料４

北九州ESDアクションプラン2015～2019の取組状況に係る報告

北九州 ESD 協議会事務局

１　取組状況の検証

（1）北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 に設定されている指標の達成状況（別紙1）

（2）北九州 ESD 協議会会員によるアンケート結果（別紙2）

（3）北九州ESD協議会実施事業の状況（別紙3）

（4）ESD カフェ（次期北九州アクションプラン策定検討ワークショップ）における参加者意見（別紙4）

（5）【参考】北九州市行政評価アンケート調査結果等による北九州市民における持続可能な社会づくりに関わる状況

２　結果

（1）指標の達成状況

北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 には、重点取り組み項目ごとに、主にイベント開催数や参加組織数等に係る 20 項目の指標が設定されている。

そのうち、2019 年の最終目標が達成することができなかった項目は3割で、 6割は、中間目標年時点で達成しているか、最終年で達成している状況である（詳細は別紙1のとおり）。

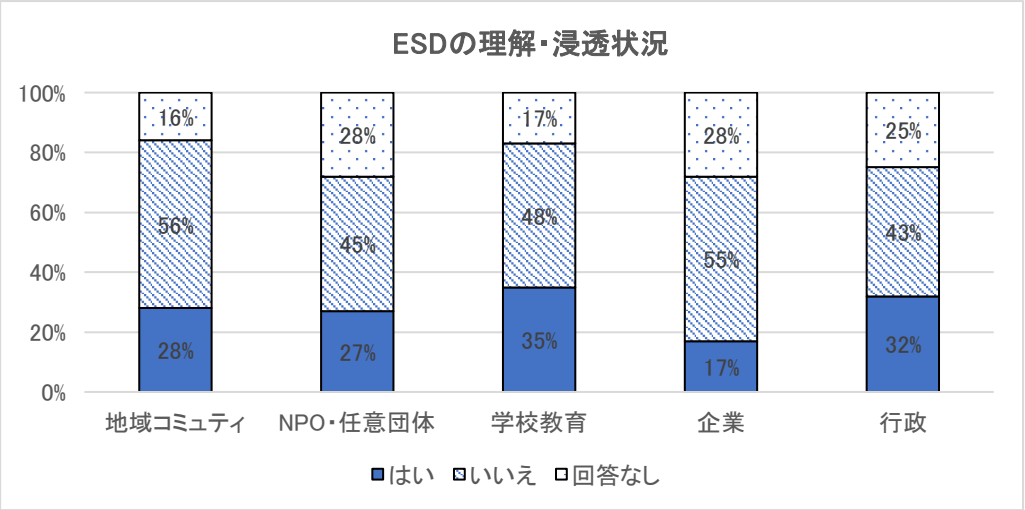
表1　アクションプランに係る目標値の達成状況

	数	割合（%）
最終年(2019 年)の目標値を既に達成している	12	60
最終年(2019 年)の目標値の達成できなかった	6	30
最終年（2019 年）までに事業が終了したもの	2	10
計	20	100

（2）北九州 ESD 協議会会員によるアンケート結果

2019 年 10 月に、協議会会員にアンケート調査への協力を依頼した。回答のあったのは 23 団体で、その概要は以下のとおりである。（詳細は別紙2のとおり）

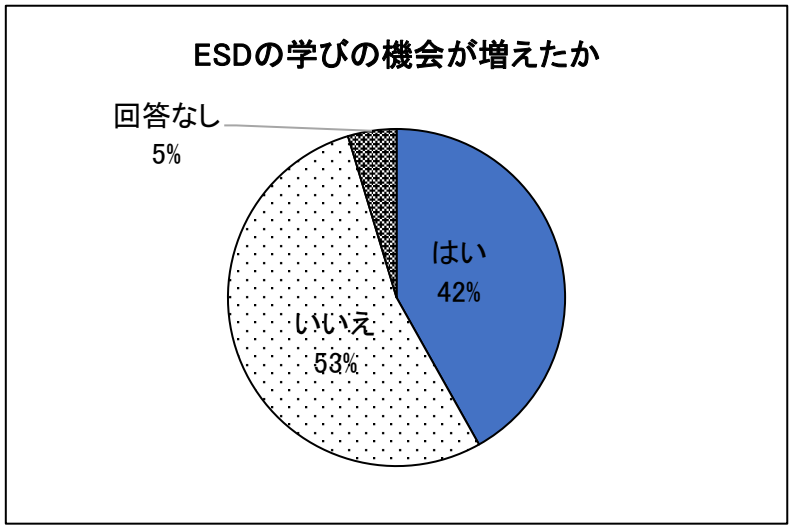
① ESDの理解・浸透状況について



「地域コミュニティ、NPO・任意団体、学校教育、企業、行政における ESD への理解が進み、浸透してきたと感じますか。」の問いに対し、企業を除くステークホルダーにおいて、約3割以上が「理解が進み、浸透してきたと感じている」と回答。その理由としては、「ESD を意識した事業が増えていると感じる」「関心のある団体が増加」など少しずつ ESD を意識し、活動している市民が増えていることがわかる。また「SDGs が浸透してきて、ESD もおのずと浸透きていると感じる」と SDGs とともに市民への意識が高まっていると考えられる。

しかし、どのステークホルダーにおいても、5割前後が「いいえ」と回答しており、その理由においては「ESD が難しい、分かりにくい」「情報が入らない」「他がどのような ESD 活動しているかわからない」など周知、広報が十分に至っていないと考えられる。

② ESDに関する学びの機会について

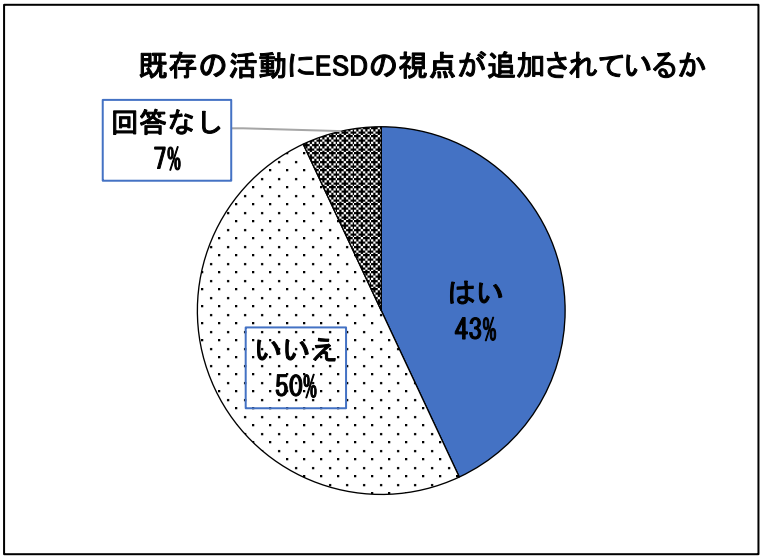


「持続可能な社会づくりに向けた課題解決の取り組みなど、ESD に関する学びの機会が増えたと思いますか」の問いに対し、42%が「はい」と回答している。

その理由として、「SDGs の PR」など視覚的に訴える機会が増え、また「SDGs の講演会」などの情報も増えることで、学びに接する機会が増えたことが大きいと思われる。

反対に、学びの機会が増えたとは思わない人は、半数以上の 53%おり、これは、周知・広報が不足していること、通常の周知・広報していても届かない人がいるため、広報ツールを拡大するなど市民への方法を今後検討する必要があると思われる。

③ 既存の活動におけるESDの追加について



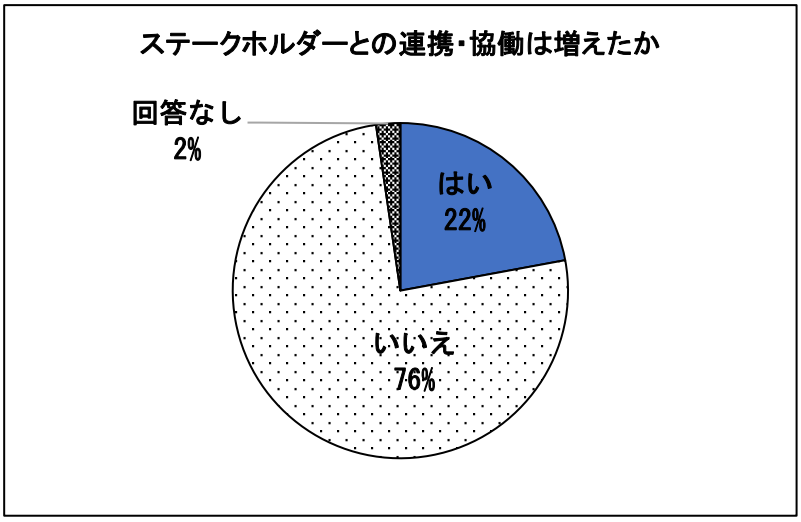
「より良いまちを目指して既に取り組まれている活動に ESD の視点がプラスされてきていると感じますか。」の問いに対し、43%が「はい」と回答している。

「はい」と答えた人が感じる活動とは、今までも行っていた「清掃活動」「資源ごみの回収」など身近な活動や、セミナーや会議、体験などへの参加において、意識こそはしていなかったが気が付いてみれば ESD の視点がプラスされていたという意見が目立つ。

一方で、ESD の視点が追加されていると感じていない人は半数の 50%で、自身の活動だけでは、ESD を感じる機会が少なく、ESD の取り組みに十分にふれていないことと相関している。

ESD 協議会の会員であっても、約半数が①ESD の理解や、②学びの機会の増加、③ESD の視点の追加を感じていないという回答が多い。その理由として「周知・広報の不足」、「難しく感じてしまい理解が進まない」などが共通してあげられている。まずは、改めて会員への ESD の理解・相互の交流を進める必要があると考えられる。

④ ESDのステークホルダーとの連携・協働について



「ご自身の活動において、国内外の ESD 関連組織等(ステークホルダー)との連携・協働が増えましたか。」の問いに対し、22%が「はい」と回答している。

連携・協働先については、「環境保全活動を通して関係団体や小中学生など」「ジェンダー平等に関して研究者や企業、大学生との協働事業が増加」など今までに行ってきた活動における他のステークホルダーや、「韓国の平和団体との交流」「JICA 研修生との交流」など海外の団体、企業は「ボランティア活動や次世代育成、地域課題解決へ向けてNPO や地域団体」などとで広がりが発展してきている。

一方で、連携・協働が増えていないと答える人の割合は、76%あり、「理解が進んでいない」、「どう他の団体と連携・交流したらいいのか分からない」という回答に加えて、「時間」「人材」不足のため、他との連携・協働までに進められないという回答であった。

⑤ 若い世代との交流・次世代育成について

「ご自身の活動において、若い世代との交流や人材育成の現状と課題を教えてください」の問いに対し、自身の活動においてあまり若い世代と交流する機会がない中でも、イベントなど通して意見交換を行い、若い世代の考えを取り入れていきたいという意見があった。

これは、自身の活動は高齢者が多く世代交代が進んでいないため、若い世代に広げていきたいという思いからかもしれない。

一方で、世代間での達成感や考え方に相違を感じている人もおり、互いを尊重して進めなければ、人材育成は難しいという意見がある。

また、イベントなどで学生との交流が進んでも、卒業・就職で継続が難しいとも感じており、世代間の交流や次世代育成については、相互の世代がじっくりと本音で話をして理解を深める必要があるという意見も見られた。

⑥ 新アクションプラン策定に望むもの

「新アクションプラン策定にあたり、ご意見等ございましたらご記入ください」の問いに対し、「これまでの活動を維持」しながら、より発展していくことを望む意見があった。さらに協議会設立して 10 年以上経過し、協議会に「自立した団体として成長」「相互のつながりの環の広がり」や「共有」を求める意見があった。

また、持続可能な社会づくりとして「SDGs」と「ESD」をしっかりと理解し、関係性を明確にすることは、望まれている。

（3）北九州ESD協議会実施事業の結果及びESDカフェにおける参加者意見

北九州 ESD 協議会が、2015～2019 年において実施した事業について北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 で「重要的に取り組む事項」として定められている項目ごと及びアクションプランについての振り返りのワークショップ「ESD カフェ」を行った結果をまとめて、分析した。（詳細は別紙3、4のとおり）

① 普及・啓発・発信（共通事項）

（北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 に定められている内容）
1. 「ESD とは？」について明確な説明を、確立・共有し、普及を進めます
2. 持続可能なまちの将来ビジョンを皆が共有し、同じ目標に向かって取り組みます
3. ESD の有効性を「見える化」して、まちづくりの施策等につなげます
4. 多様なメディアを活用し、市民への情報発信と活動の推進を図ります
5. あらゆる分野・世代の人々がつながり、協働する仕組みづくりを行います
6. 既存の活動に ESD の視点を加えることで、活動の価値を高める
7. 既存の ESD プログラムの整理に加え、新規開発を行い、普及ツールを強化します
8. 国内外の ESD 関連組織との連携を深め、情報の収集・提供を行います

上記計画の項目	実施事業名	意見・分析
1	ESD 認知度調査	認知度調査だけでなく、全ての事業においてこの5年間普及を進めてきた。ESD・SDGsという単語だけでは広がりにくいので、実践している具体例を挙げた周知が必要。
2	ESD カフェの企画・開催	会員間の交流企画は決して十分ではなかった。今後は、互いを思いやる対話が重要であり、そのため会員間の交流が深まる企画を多くの会員が希望している。
3	未来パレット活動報告会実施	ESDの活動を通じて、有効性を「見える化」してきた。今後のまちづくりへと発展することが期待される。
4	協議会広報誌　未来パレットだより発行	紙媒体の広報も必要だが、ホームページや SNS など多様なメディアをもっと活用していくことも必要。ただ、高齢者や子どもを置き去りにしないサポートが必要。
	ESD 啓発グッズ作成	

<table>
<tr><td rowspan="3">5</td><td>市内イベント出展</td><td rowspan="3">ESD をあまり知らない人や関心のない人たちにも、ESD について考えるきっかけをもたらすものとなり、多くの市民と ESD がつながる機会となったと考えられる。今後の課題は、かみくだいた PR（楽しく、分かりやすい）を、どのように行動変容につなげていくかを考えながら、事業を進めることである。</td></tr>
<tr><td>ESD 教材の開発</td></tr>
<tr><td>協議会設立10周年記念事業</td></tr>
<tr><td>6</td><td>出前講座</td><td>今まで会員が行ってきた ESD 活動の普及を進めていくもので、地道な活動ではあるが直接学ぶ機会となり、効果は大きいと思われる。また講師である会員においても学ぶ機会となることから、今後ももっと進めていくべき。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>北九州 SDGsアワード表彰</td><td>市民団体等の ESD 活動を「見える化」することでまちづくりへとつながっている。また、「北九州 SDGs アワード表彰」事業は、3や6の項目にも関連し、今後も継続・発展が期待される。
また、ESD と SDGsはつなげて考え、一緒に広げていく必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8</td><td>北九州 ESD フォーラム</td><td rowspan="2">韓国 RCE との相互交流は、10 年以上にわたって実施しているもので RCE 北九州の特徴的な事業の一つでもあり、他の RCE からも注目されている。他のRCEとの交流も含め、今後はグローバル人材の育成をより強化していきたい。</td></tr>
<tr><td>国際交流学習</td></tr>
</table>

② ステークホルダー別取り組み

（ア）地域・ネットワークづくり

1. 地域コミュニティ、学校、企業、NPO など多様なステークホルダーの連携を促進し、ネットワークを構築します。
2. ESD コーディネーターを育成し、地域課題解決の取り組みを創出します。

<table>
<tr><th>上記計画の項目</th><th>実施事業名</th><th>意見・分析</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>市民センター等 ESD 推進事業推進</td><td rowspan="2">「市民センター等 ESD 推進事業推進」事業は、のべ 31 団体が 8,000 人以上への普及を行ってきたことは大きな功績と思われる。今後は活動団体がより広がり、さらに ESD の視点を取り組んだ内容へと充実していくことが望まれる。
「おしゃべり工房～ざっくばらんにESD～」事業は、2017年より始まった事業で、参加人数も徐々に増え、今後も市民センターを拠点とした地域と活動団体との連携の強化が期待できる。</td></tr>
<tr><td>おしゃべり工房～ざっくばらんに ESD</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ESDコーディネーター育成事業</td><td>市民センター館長研修を主に実施してきたが、2019 年度からは受講対象者を広げ、内容についても地域の ESD 普及の鍵となるコーディネーター育成が進むよう、より深い学びの機会を提供した。今後は次世代の育成も含め、さらに質的充実化を図りたい。</td></tr>
</table>

（イ）多様な教育の場

1. 北九州まなびと ESD ステーションと協働で、就学前、小・中学校、高校、大学と切れ目のない ESD 推進の仕組みづくりを行います。
2. 環境未来都市としての独自性を活かした環境体験活動を中核とした環境教育に引き続き取り組み、シビックプライドの醸成を図ります。
3. ユネスコスクール及び推進指定校を拠点として、ESD の視点を取り入れた学校教育を推進します。
4. 教育関係者の ESD に関する理解啓発を進めるとともに、指導力向上を図ります。
5. 北九州まなびと ESD ステーションの機能を存続させ、活動の活性化を図ります。
6. 若い世代に ESD を浸透させるため、発信方法の工夫を行います。

上記計画の項目	実施事業名	意見・分析
1・5	まなびと講座	2016 年から3年間実施された「まなびと講座」は、主に市内の 10 大学が連携、多くの大学生に対して会員が講師となって ESD について講義するというもので、のべ 15 回開催された。これは、ESD の知識のなかった学生にとっても、講師となった会員にとってもの大きな学びのきっかけとなった。この事業を通じて、協議会と大学との連携が深まり、現在のプロジェクト活動でも活躍しているサブコーディネーター活動へとつながっている。事業は 2018 年に終了したが、複数の大学の学生と会員が連携して学びを進めるというコンセプトは今後も継続していく必要がある。 2017年から2年間実施されたESD推進のための実践拠点支援事業においても、市

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>ESD 推進のための実践拠点支援事業</td><td rowspan="2">内外の高校生たちが参加し、高校・大学・地域との協働によるESDの深い学びが進み、多様な教育の場にESDの浸透を図った。
今後は、事業終了後も、学んだ学生たちが各々の場所で活動を継続しているよう、協議会のサポート体制の構築が必要と思われる。
2018 年に実施した日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）開催事業は、まなびと ESD ステーションと大学と協働して推進されたもので、日頃からの ESD 活動を国際会議において発表することができた。これは参加者への大きな経験となったもので、RCE 北九州として、今後も国際的な活動をより進めていきたい。</td></tr>
<tr><td>日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）開催</td></tr>
<tr><td>6</td><td>ユースプロジェクト</td><td>ユースプロジェクトは、協議会のプロジェクトメンバーの協力を得て、ユースメンバーが藍島の清掃活動や、韓国の RCE との交流、カンボジア教育支援活動などを実施した。それぞれの活動は、各会員やプロジェクトの活動で現在も引き続き実施されている。今後は企業や他のステークホルダーと連携して新たなパートナーシップを図りたい。</td></tr>
</table>

一方、項目3、4など、小・中学校などユネスコスクールを中心にした ESD への取り組みやその他 ESD 協議会の事業化に至らない項目もある。

SDGs の視点を踏まえた学校教育を推進していくことが「北九州市教育大綱」に盛り込まれており、今後は教育委員会と協働して SDGs の視点を踏まえ、取り組みを進めていきたい。

（ウ）企業

1. 社会・環境への大きな影響力を持つ企業・事業者へのESDの周知を強化します。

上記計画の項目	実施事業名	意見・分析
1	企業へのESD研修 企業におけるESD調査	企業へのESD普及を進めるため、北九州市内の環境関連企業を中心に研修を実施。近年、企業においてSDGsの推進が進んでいることもあり、のべ800人以上の社員の方が参加された。課題として、企業自体がESD推進に取り組む意図を協議会として理解して、他のステークホルダーと協働することの意味を考える必要があると思われる。 企業におけるESD調査は、北九州市内の企業に赴き、女性の雇用について聞き取り調査を行った。働く女性の社会的地位と職業水準の向上を企業とともに考える機会となった。 今後は、「北九州SDGsアワード表彰」で実施したように、企業の理解を深め、行動を促すために、企業の優良事例の発信を行う。また、企業活動を活かし、ユースに就職や起業につながる活躍の機会を提供することが、地方創生の点からも期待される。

（エ）行政機関

1. 行政機関のあらゆる施策にESDの視点が盛り込まれるよう働きかけます。

上記計画の項目	実施事業名	意見・分析
1	行政職員向けESD研修	SDGsゴール4の観点からも、協議会は北九州市と共催して人材育成としての行政職員へのESD/SDGs研修を実施してきた。会員からは行政職員のESD/SDGsのより深い理解を求める声があり、課題として、協議会が、行政職員の人材育成についてどのように関わっていくか検討が必要である。

③ 推進体制・事務局

1. あらゆる主体がつながる協働のコーディネートを行います。
2. 取り組みを計画的に行うため、ＰＤＣＡサイクルの仕組みづくりを行います。
3. 上記の取り組みを活発に行うため、協議会・事務局体制を整えます。

2017 年より九州 ESD アクションプラン 2015～2019 に基づき、新活動体制を整備し、5つのプロジェクトに活動を開始した。また ESD 協議会の専属のコーディネーターを設置、さらに、北九州市立大学地域創生学群の学生及び各プロジェクトリーダーをサブコーディネーターとして、多様な意見を取り入れる体制を整え、会員間の交流を促し、協働の取り組みの拡充を図ってきた。

また、ESD 推進拠点（RCE）として、他の RCE とも連携し、ESD 活動に協働してきた。国外では、韓国の RCE インジェ、トンヨン、ドボン区などと交流を盛んに行い、国内では 2019 年に全国 RCE 実務者会議を北九州で開催するなど、相互の連携を強めている。

さらに、「地域 ESD 活動推進拠点」としても、九州地方活動支援センターと協働し、ESD 推進のための実践拠点支援事業を実施した。

しかしながら、現体制では、プロジェクトの枠組みにとらわれて、拡がりに限界があるとの意見も見られた。今後は、協議会の新たな枠組みを検討し、会員とのパートナーシップを深め、さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいく。

なお、ESD カフェでの意見では、2020 年の新型コロナウイルスの影響で、拠点である「まなびと ESD ステーション」の利用者は大幅に減少し、オンラインによる交流などの発達が見られた。今後、拠点の意義が変化しつつあるなかで、持続可能な拠点のあり方の検討が必要という意見も見受けられた。

【参考】

（4）調査結果等による北九州市民における持続可能な社会づくりに関わる状況

北九州市が毎年行政評価を実施するにあたって、市民 3,000 人を対象にアンケートを行っている。そのうち、「持続可能な社会」の状況を表している質問について分析を行った。

① ESD・SDGs の認知度

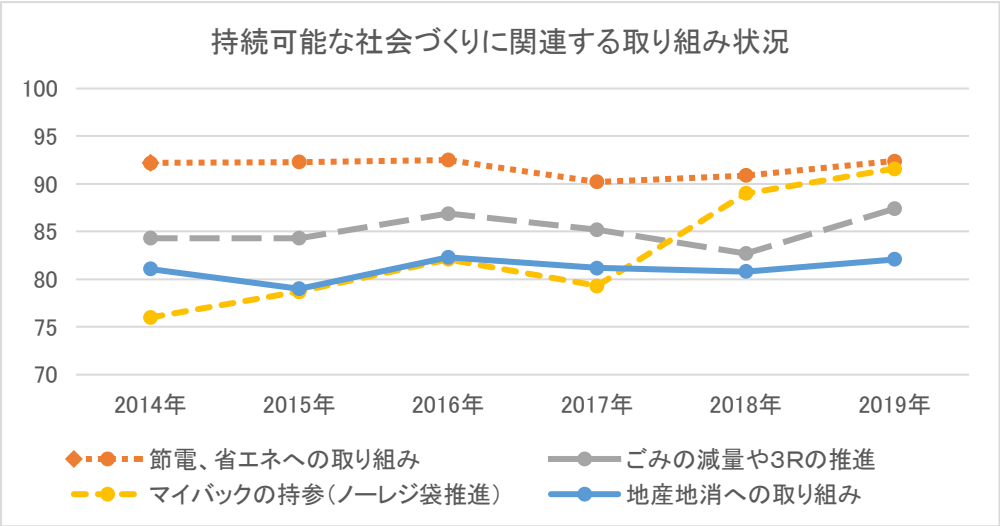
		2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
ア	ESD の認知度	4.1%	5.5%	5.9%	5.2%	5.3%	
イ	持続可能な社会づくりへの取り組み度						85.3%
ウ	SDGs の認知度					23.7%	44.9%

ア　「あなたは、ESD という言葉や取組内容を知っていますか。」の問いに対し、「内容も知っているし、取り組みにも参加している」「詳しくは知らないが、おおよそは知っている」と答えた人の割合が上記である。

イ　「ESD」という用語のみの認知度を上げることが重要ではなく、持続可能な社会づくりのために社会課題を意識し、日常生活の中で解決に向けて取り組んでいる人を増やすことが重要として、2019 年調査より「社会課題を意識し、日常生活の中で解決に向けて取り組んでいるか」と変更している。その結果、「課題意識があり、実際に行動している」「課題意識があり、これから行動する予定である」「課題意識はなかったが、すでに行動している」と答えた人は 85.3％あり、8割以上の人が課題意識を持って、または持続可能な社会づくりへの取り組みを行動していることが分かる。

ウ　2018 年に本市は SDGs 未来都市に選定され、「SDGs」の認知度は上がってきていることも見受けられる。

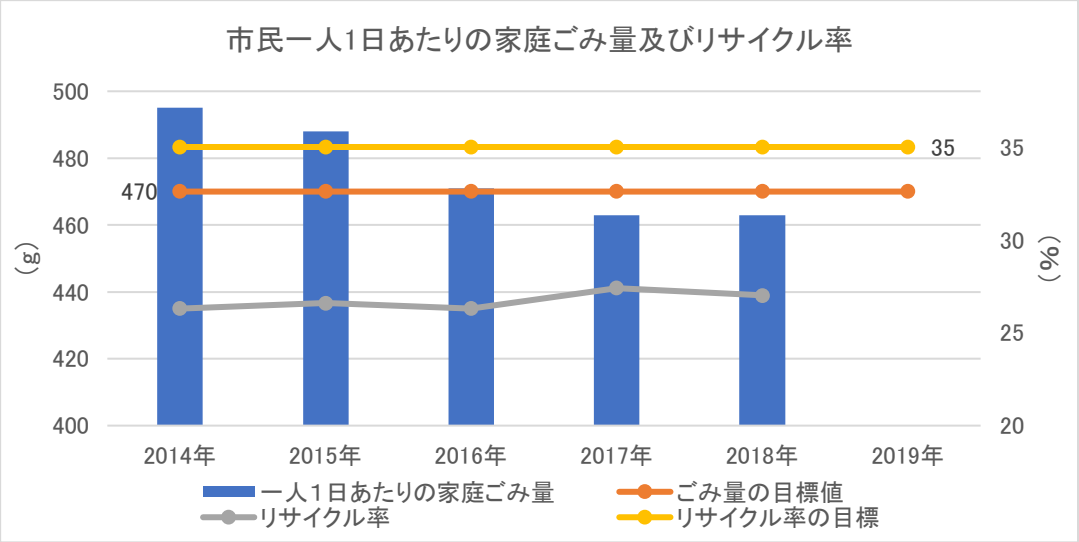
② 持続可能な社会づくりに関連する調査



持続可能な社会づくりに関連する項目として「節電、省エネへの取り組み」、「ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進」、「マイバックの持参（ノーレジ袋推進）」、「地元産や旬のものを選んで食べる地産地消」について、2014年～2019年のアンケート結果について比較を行った。

近年のプラスチックごみ問題が取り上げられていること、2020年からのプラスチック製買物袋有料化などの動きにより、マイバック持参の行動は約15%の改善効果が見られ、多くの市民において当たり前の行動として定着してきた。しかしながら、現アクションプランの対象期間において、その他の項目については、顕著な改善効果は見られなかった。

③　市民一人1日あたりの家庭ごみ量及びリサイクル率の変化



日々の市民活動に直結した指標の一つと考えられる「市民一人1日あたりの家庭ごみ量」及び「リサイクル率」について、分析を行った。

ごみの減量化・資源化の取り組みの推進は、「北九州市循環型社会形成基本計画」に基づき進められているもので、2017年より市民一人1日あたりの家庭ごみ量は、2020年の目標値(470g)を達成している。しかしながら、リサイクル率は2020年の目標値(35%)に達してはいない。

「市民一人1日あたりの家庭ごみ量」及び「リサイクル率」については、一部の市民の活動だけでなく、市民全ての活動が「持続可能な社会づくり」を意識し、行動しなければ目標に達成しないものと考えられる。家庭ごみの減量については、目標に達したもの、リサイクル率はまだ目標に達していないことから、今以上に、「市民環境力」を発揮して、日々の生活や活動を行う中で、環境に配慮した行動を主体的に行うことにより、環境負荷の抑制に努めることが必要と思われる。

3 総括

（1）普及・啓発・発信（共通事項）

北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 に規定されている指標の達成状況において、普及・啓発・発信（共通事項）では、6項目中4項目について、目標が達成された。また、北九州 ESD 協議会が、2015～2019 年において実施した事業について普及・啓発・発信においては、13 の事業を行い、北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 で重点的に取り組む小事項においても全て網羅している。

しかし、ESD 協議会会員によるアンケート結果においては、どの項目においても、ESD の理解・浸透が進んでいると感じられておらず、その理由においては「ESD が難しい、分かりにくい」「情報が入らない」「他がどのような ESD 活動しているかわからない」など周知、広報が十分に至っていないと考えられる。

また、会員による ESD カフェにおいて参加者からの意見結果でも、普及・啓発・発信は 5 点満点中 3.2 点と決して高評価ではなく、「情報発信・更新が十分ではなかった」など問題点が挙げられている。その結果、ESD の認知度においても十分に進んでいかなかったと考えられる。

2015 年以降 SDGs の発展に伴い、ESD の活動は広がりを見せているが、市民アンケートの結果を見ると、SDGs の認知度が上昇する一方で、ESD の認知度は変わらない状況にある。会員からは、ESD と SDGs の理解を深めることが必要であり、一緒に広げていく必要があるという意見が複数あった。

周知方法では、会員からの意見で「ESD という言葉だけの周知でなく、目的・取り組みなどの周知がもっとなされるべき」という意見もあるため、今後は周知・内容の方法の改善の検討が必要である。

（2）ステークホルダー別取り組み

① 地域・ネットワークづくり

北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 に規定されている指標の達成状況において、地域・ネットワークづくりでは、3項目中3項目について、目標が達成された。また、協議会が実施した事業について地域・ネットワークづくりにおいては、継続的に広く、深い学びの機会となる事業を行い、会員によるアンケート結果においても地域コミュニティは他のステークホルダーより ESD が認知され、浸透していると感じられている。

これは、会員からのアンケート結果にもあったように、今までも行っていた身近な活動が、意識すれば ESD の視点がプラスされていることに気が付いた人たちが広がっているのではないかと推測できる。

しかし、会員による ESD カフェでの意見結果でも、「市民センターを拠点として、周りを巻き込んで広がっていく必要がある」、「学校、保護者、市民センター、まち協との連携による次世代の育成が必要」、「積極的に交流の場に参加して人脈を拡げていくことが今後はもっと大事」といった検討が必要な点は多く、7区全ての地域における拡がりも必要と考えられる。

② 多様な教育の場

北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 に規定されている指標の達成状況において、多様な教育の場における達成状況は決して芳しくはない。これは協議会実施事業の結果でも述べたように、小・中学校などユネスコスクールを中心にした ESD への取り組みについては、ESD 協議会の事業化に至らなかった。今後は北九州市教育委員会と協働して SDGs の視点を踏まえ進めていきたい。

しかし、この5年間において、最も大きな成果の一つとして考えられる事項は、協議会と大学等との連携であり、まなびと講座による 10 大学連携事業や、高校生と連携した ESD 推進のための実践拠点支援事業である。それが現在のプロジェクト活動でも活躍しているサブコーディネーターの活動へとつながっている。

今後はこの5年間で得た成果であるユースの活動が、他の高校・大学、その他のさまざまなステークホルダーと連携・協働し、新たなパートナーシップを形成して、次世代育成が進展していくことが期待される。

③ 企業

北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 に規定されている指標の達成状況において、企業では3項目中2項目が目標を達成できた。また、協議会が実施した事業について、例年企業向けの ESD/SDGs 研修は実施しており、近年、企業において SDGs の推進が進んでいることもあり、参加者は増加傾向にある。会員による ESD カフェでの意見結果でも、企業において「SDGs の土壌は整いつつある」と考えられており、SDGs で企業が動き始めているので、SDGs と ESD の位置づけを明確にして、ESD 活動へ企業の巻き込みが必要と思われる。

今後は、他のステークホルダーとの連携が必要である。また、企業活動を活かし、ユースに就職や起業につながる活躍の機会を提供することが期待される。

④ 行政

北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 に規定されている指標のとおり、協議会は北九州市と共催して人材育成としての行政職員への ESD/SDGs 研修を実施してきた。しかし、それは決して十分なものではなく、その結果は、会員による ESD カフェでの意見結果でも、5 点満点中 2.6 点と最も低く、「行政組織での ESD 実践不足」や「行政職員への ESD/SDGs の意味・背景の研修が必要」という声があった。

北九州市は、2018 年に「SDGs 未来都市」及び「自治体 SDGs モデル事業」に選定された。その後、「北九州市 SDGs 未来都市計画」を策定し、環境・経済・社会を中心とした3側面に関するあらゆる施策に SDGs 達成に向けた視点を盛り込み実施している。今後協議会が、行政職員の人材育成について今後どのように関わっていくか検討し、北九州市とより協働を深め、ESD/SDGs の視点をもったまちづくりに貢献していきたい。

（3）推進体制・事務局

北九州 ESD アクションプラン 2015～2019 策定後、協議会は拠点を「まなびと ESD ステーション」に移し、市民・NPO、企業、学校等と協働の取り組みを拡大してきた。また、推進体制についても、5つのプロジェクトとさまざまなステークホルダーたちによる運営委員会を発足させ、各会員がそれぞれの分野において5年間活動を広げてきた。事務局体制も 2017 年より専属コーディネーターを設置し、会員と地域などをつなぐ取り組みを実施してきた。

上記のさまざまな事業を会員等とともに実施した結果、2017 年には協議会は「地方自治法施行 70 周年記念総務大臣表彰」を受賞した。また、会員においても、それぞれにおいて活動は発展していき、「まなびと ESD ステーション」の位置する魚町商店街が SDGs 商店街として発展するなど、協議会の活動は、北九州市の「持続可能な社会づくり」の貢献の一つとなって、「SDGs 未来都市」へ選定されたことは大きな成果であろう。

一方、会員による ESD カフェででは、「会員間のネットワーク作りが必要」、「会員間の活動をよく知ることが大前提」などの意見もあり、会員とのコミュニケーションがまだ十分でなかったと考えられる。今後は、市民や各会員の主体的な活動を一層推進するとともに、会員間のネットワークづくりを強化していく。

また、現体制では、プロジェクトの枠組みにとらわれて、拡がりに限界があるとの意見も見られた。今後は、協議会の新たな枠組みを検討し、会員とのパートナーシップを深める必要がある。

協議会は ESD の地域拠点である RCE という役割も持っており、今までも全国 RCE 実務者会議の北九州での開催や、韓国の RCE との交流も実施してきた。今後は会員、市民だけでなく、他の RCE との情報共有を深め、他の RCE との交流をより広げていきたい。

さらに、「地域 ESD 活動推進拠点」としても、九州地方活動支援センターと協働し、ESD 推進のための実践拠点支援事業を実施した。今後もさまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいく。

なお、ESD カフェでの意見では、2020 年の新型コロナウイルスの影響で、拠点である「まなびと ESD ステーション」の利用者は大幅に減少し、オンラインによる交流などの発達が見られた。今後、拠点の意義が変化しつつあるなかで、持続可能な拠点のあり方の検討が必要という意見も見受けられた。